

学校の教育目標:「主体的に考えて行動し(自主), 粘り強く学んで新しい価値を見いだし(創造), 他者と協働しながらたくましく生きる(友愛)生徒の育成」

育成を目指す資質・能力:「自己表現力」・「自己指導能力」

4段階評価  
(A:十分達成 B:おおむね達成 C:課題がある D:大いに課題がある)

重点目標	担当	達成指標	分担	重点的取組	取組指標	学習指導要領が目指す 資質・能力との関連			取 実組 施指 率標 の	取組指標に対する 取組状況の確認	達成指標に対する 達成状況の確認	検証・改善【                      】回目		達成指標・取組指標の妥当性を 検証	自己評価		改善方策	学校関係者評価			
						知 識 及 び 技 能	力思 ・考 表力 現、 力判 断等	力学 ・び 人 に 関向 性が 等う				取組別	全体		学校関係者意見	評価					
自分の言葉で豊かに表現する力の育成	研究主任	(A)定期テストにおいて、記述式問題の正答率の教科平均13人(70%)以上  (B)各種学力調査おける各教科の思考力・判断力・表現力の問題において正答率が全国平均以上  (C)以下のアンケート調査で肯定的回答13人(70%)以上 ◇「授業で積極的に表現できた。」 ◇「学級の中で自分の思いや考えを分かりやすく伝えることができています。」 ◇「授業が分かる。」	学校	(1)学力向上対策「本校の重点1・2・3」等に基づく授業実践	①授業者は、「情報の取り出し→思考・判断・表現」を意識した授業に取り組む。	○	○														
					②授業者は、単元計画に基づいた「必然性をもったペア・グループ活動」を行う。	○	○														
					③授業者は、毎時間「振り返り」を行い、見取りを行う。		○	○													
					④授業者は、授業の流れを毎時間、生徒に示す。			○													
					⑤授業者は、毎時間の授業で「生徒指導の3機能」を取り入れた展開を行う。			○													
					⑥5教科担当者は、朝学習や週末課題で弱点補強に取り組む。	○	○														
			家庭	(2)「書く力」の育成	⑦国語科は、朝学習時に、ワークシートを活用した「コラム学習」を2週間に1回行う。(担任は、短学活で発表する場を設定する。)	○	○														
					⑧授業者は、単元または1単位時間で、「表現する場」、各自の「思いを伝える場」を設定する。	○	○														
					⑨研究主任は、「鶴中スイッチ」の生徒(生徒会含む)・教師の振り返りを学期に1回以上行う。			○													
			地域	(4)生徒と共につくる授業づくり	⑩研究主任は、生徒アンケート等の結果を踏まえた授業づくり集会を学期に1回以上開催する。			○													
					⑪学年担当者は、地域協育コーディネーターと連携し、郷土愛を育むための地域との交流学习等を学期に1回以上実施する。		○	○													
					⑫家庭は、定期テスト前「家庭学習強化週間」において、「記録表」を用いて確認をする。			○													
			地域	(6)家庭学習時間の確保	⑬保護者は、学校行事や学校公開に積極的に参加する。			○													
					⑭地域の方は、地域協育コーディネーターと連携し、ゲストティーチャーとして学期に1回程度授業に参加する。	○	○														
					⑮担任は、毎学期はじめと終わりに「未来をえがくキャリア・ノート」を活用した目標設定や振り返りを行う。		○	○													
目標を掲げ、夢を実現しようとする生徒の育成	教務主任	(D)以下のアンケート調査で肯定的回答13人(70%)以上 ◇「目標の実現のために努力した。」 ◇「学校が楽しい」と肯定的に回答する生徒13人(70%)以上  (E)HyperQU調査において「要支援群」の生徒2人以下	学校	(9)目標設定と振り返りの充実	⑯各担当者は、各種行事等において、校訓と連動した目的のもとで、取組を進める。			○													
					⑰担任は、毎週月曜日に「人間関係づくりプログラム」(鶴中スマイルタイム)を実施する。		○	○													
				(10)互いのよさを見つけ認め合える集団づくり	⑱教育相談コーディネーターは、「人間関係づくりプログラム」の毎月の計画を作成し、提案する。			○													
					⑲各学年は、月に1回の「いじめアンケート」、学期に2回の「生活アンケート」の結果をもとにした個別面談を行う。			○													
					⑳家庭は、定期テスト前「家庭学習強化週間」において、「記録表」を用いて確認をする。		○	○													
			家庭	(12)子どもが設定した目標と振り返りの確認	㉑保護者は、学期はじめと終わりに「未来をえがくキャリア・ノート」を子どもと確認し、励ましのコメントを記入する。		○	○													
					㉒地域の方は、地域協育コーディネーターと連携し、ゲストティーチャーとして学期に1回程度授業に参加する。	○	○														
				(14)福祉体験・交流学习	㉓地域の事業所は、学年担当者と連携し、福祉体験や交流学习を年間1回以上実施する。	○	○														
			地域	(13)地域との交流を通した「郷土学」の推進	㉔運営委員会は、毎月2回以上開催し、会議の精選を積極的に行い、会議時間40分以内を目指す。																
					㉕「年次有給休暇」の計画行使																
					㉖「週3日5時間授業の取組により子どもと向き合う時間を確保できている」と肯定的に回答する教員の割合90%以上																
					㉗会議の縮減																
			ワーク の 実 現 イ フ バ ラ	管理職	①ストレス診断「総合健康リスク」60以下  ②時間外在校等時間 全教職員の月平均25時間以下  ③「週3日5時間授業の取組により子どもと向き合う時間を確保できている」と肯定的に回答する教員の割合90%以上	学校	①会議の縮減	㉘運営委員会は、毎月2回以上開催し、会議の精選を積極的に行い、会議時間40分以内を目指す。													
								㉙「年次有給休暇」の計画行使													